

17 レタス（玉レタス）

地域慣行基準

【化学肥料】

区 分	窒素成分量 【kg/10a】	備 考
南佐久	18	
上記以外の地域	16	

※①前年秋に有機物の腐熟促進のため、石灰窒素などの窒素を含有する肥料を施用した場合は、窒素成分で4kg/10aを上限に、施用した窒素成分を地域慣行基準に加えるものとする。

②5～6月出荷の場合は、上記窒素成分量を2割上乘せするものとする。

(1) 特徴及び吸収特性

地域慣行基準でも示されているとおり、5～6月出荷の低温期の作型では地力窒素の発現量が少ないため施肥窒素の比重が大きく、窒素施肥量が多くなる。一方高温期の作型では地力窒素の発現が期待される。

レタスの窒素吸収パターンは生育初期が少なく、結球始期から急増し収穫前は緩やかになる。窒素は球の肥大を促進するが、**多すぎると外葉が過剰生育し変形球を招き、結球も遅れる**。また、窒素やカリの過剰はカルシウム欠乏症の発症を助長する。

目標収量と養分吸収量（夏まき作型）

目標収量(kg/10a)	養分吸収量(kg/10a)				
	窒素	リン酸	カリ	石灰	苦土
4000	10.6	2.3	25.4	3.2	1.8

レタスの窒素吸収量は生育状況にもよるが**10kg/10a前後**である。

肥料、堆肥などの有機物、地力窒素、土壌中の無機態窒素などにより必要な窒素量をレタスに効率的に供給することが、環境保全的な施肥の基本である。レタスは栽培面積が広いため、施肥が環境に及ぼす影響も大きいといえる。